

1. 法隆寺 2. 平等院鳳凰堂 3. 正倉院 4. 東大寺南大門

1. 朝鮮半島では高麗が滅び、李氏朝鮮による統治が始まった。
2. 中国を再統一した隋が、日本に対して朝貢を求める使節を送ってきた。
3. 中国では長らく続いた唐が滅亡し、社会が混乱する五代十国の時代に入った。
4. モンゴル民族が勢力を広げ、フビライ・ハンが元を建国した。

1. 足利尊氏 2. 源頼朝 3. 平清盛 4. 北条時政

1. 645年から743年までの期間 2. 743年から794年までの期間 3. 1086年から1192年までの期間 4. 794年から1086年までの期間

1. 近畿地方の寺院の勢力を抑えるため、関白（かんぱく）に任命された。
2. 北九州の防備を固めるため、防人（さきもり）に任命された。
3. 東北地方の蝦夷（えみし）を服従させ支配を広げるため、征夷大將軍に任命された。
4. 全国の戸籍を作成し租税を徴収するため、国司（こくし）に任命された。

1. 床の間や違い棚、畳を敷き詰めた部屋を特徴とする書院造が、貴族の日常生活の場となった。	2. 自然との調和を重視し、池や庭園を眺められるよう建物が廊下で結ばれた寝殿造が用いられた。	3. 仏教の影響を強く受け、左右対称の伽藍配置を持つ寺院のような居住空間が一般的であった。	4. 防御機能を重視し、高い塀や堀で囲まれた質素で堅固な武家屋敷の構造を取り入れた。
---	--	---	--

1. 地方の有力な武士と主従関係を結び、軍勢力を背景に朝廷を統制する仕組み。

2. 天皇の母方の親戚（外戚）の立場を利用して、摂政や関白に就任し政治を行う仕組み。

3. 武士の棟梁が幕府を開き、朝廷から政権の委任を受けて全国を支配する仕組み。

4. 天皇が位を退いて上皇となり、院庁を開いて政治の実権を握る仕組み。

1. 禅宗の影響を強く受け、書院造と呼ばれる簡素な武家文化の様式を取り入れている。
2. 大陸との貿易で得た富を象徴するため、建物の外壁全体に金箔を貼り巡らせている。
3. 一層目が住宅風、二層目が禅宗様式の仏堂という、異なる文化が融合した二層構造である。
4. 阿彌陀如来を祀り、華麗な装飾や池を中心とした配置によって極楽浄土を表現しようとした。

1. 自らが上皇となり、摂政や関白を介さずに直接政治を行う「院政」を開始した。
2. 遣唐使の派遣を継続し、唐の進んだ政治制度を取り入れることで中央集権化を進めた。
3. 娘の徳子を高倉天皇の后とし、その間に生まれた安徳天皇を即位させて外戚となった。
4. 武力によって京都の朝廷を完全に解体し、鎌倉に独自の政治拠点（幕府）を開いた。

1. 東大寺大仏殿 2. 厳島神社 3. 中尊寺金色堂 4. 平等院鳳凰堂

1. 紀貫之らが編纂した、中国の唐の詩人の作品を集めた日本初の漢詩集が『古今和歌集』です。
2. 清少納言によって著された、宮中での生活や四季の情景などを描いた随筆が『枕草子』です。
3. 柿本人麻呂らの作品が収められた、現存する日本最古の和歌集が『万葉集』です。
4. 紫式部によって著された、安土桃山時代の武士の生活を描いた長編小説が『源氏物語』です。

1. 仏教を広めるために幕府が平易な文字の使用を命じ、庶民の間に娯楽としての読書が急速に普及した。

2. 遣唐使の廃止にともない、日本の風土や生活に合わせた国風文化が発達し、かな文字による表現が広まった。

3. 大陸との交流が盛んになり、最新の唐の文学理論をそのまま取り入れることが奨励された。

4. 武士が政治の実権を握り、素朴で力強い文化が好まれたため、戦の様子を伝える文学が主流となった。

1. 解体新書 2. 平家物語 3. 源氏物語 4. 東大寺正倉院の宝物

答え合わせ・解説

問1	答え 2 平等院鳳凰堂	藤原氏による摂関政治の全盛期に、藤原道長の子である頼通によって建立されました。当時の社会に広がっていた「末法思想」を背景に、阿弥陀如来を信じて極楽浄土への往生を願う浄土信仰（浄土教）が具現化されたものです。屋根に据えられた鳳凰などが特徴で、10円硬貨のデザインにも採用されています。
問2	答え 3 中国では長らく続いた唐が滅亡し、社会が混乱する五代十国の時代に入った。	10世紀初頭の907年に唐が滅亡した後、中国では「五代十国」と呼ばれる分裂と戦乱の時代が約半世紀続きました。この大陸の情勢不安は、日本が遣唐使を停止した理由の一つでもあり、その後の国風文化の発達を促す背景となりました。隋の統一は6世紀末、元の成立は13世紀、李氏朝鮮の成立は14世紀末の出来事です。
問3	答え 3 平清盛	保元の乱や平治の乱を経て武士の地位を向上させた平清盛は、1167年に武士として初めて太政大臣の位に就きました。彼は自分の娘を天皇のきさきにするなど、従来の貴族と同じような手法で権力を固め、平氏一族による全盛期を築きました。
問4	答え 4 794年から1086年までの期間	国風文化は平安時代の中期、特に摂関政治が行われていた時期を中心に発展しました。794年の平安京遷都から、白河上皇が院政を開始する1086年までの期間がこれに該当します。この時期は遣唐使の停止（894年）を経て、日本の風土に合った洗練された文化が開花しました。
問5	答え 3 東北地方の蝦夷（えみし）を服従させ支配を広げるため、征夷大將軍に任命された。	律令国家の体制を整えようとした朝廷は、支配が及んでいなかった東北地方へ勢力を拡大しようとしていました。桓武天皇によって征夷大將軍に任命された坂上田村麻呂は、胆沢城（現在の岩手県）を築くなどして、東北地方北部まで朝廷の支配領域を広げる役割を担いました。
問6	答え 2 自然との調和を重視し、池や庭園を眺められるよう建物が廊下で結ばれた寝殿造が用いられた。	「源氏物語絵巻」には、平安時代の貴族の住まいであった寝殿造の内部や庭園の様子が描かれています。寝殿造は、壁が少なく開放的な構造をしており、四季折々の自然を楽しむために池や庭園と一体化した空間作りがなされていました。一方で、畳や床の間が特徴の書院造は、後の室町時代以降に発達した様式です。
問7	答え 2 天皇の母方の親戚（外戚）の立場を利用して、摂政や関白に就任し政治を行う仕組み。	藤原氏は自分の娘を天皇のきさきにし、生まれた子どもを次の天皇に立てることで、天皇の母方の親戚（外戚）という立場を確立しました。この血縁関係を背景にして、天皇が幼いときは摂政、成人してからは関白となって政治の実権を握りました。
問8	答え 4 阿弥陀如来を祀り、華麗な装飾や池を中心とした配置によって極楽浄土を表現しようとした。	平等院鳳凰堂は平安時代の貴族文化を代表する建築で、浄土信仰に基づき、池の中に建物が浮かぶような宮殿風の造りが特徴です。一方、足利義政の銀閣は、簡素さを重んじる東山文化（室町時代）の代表例であり、禅宗の精神や後の日本住宅の原型となる書院造が特徴であるため、建立の背景や様式が異なります。
問9	答え 3 娘の徳子を高倉天皇の後とし、その間に生まれた安徳天皇を即位させて外戚となった。	平清盛は武士として台頭しましたが、政治手法は藤原氏と同様に、天皇との親戚関係（外戚関係）を利用するものでした。当時の系図によれば、清盛の娘である徳子（建礼門院）が高倉天皇の後となり、その間に生まれた安徳天皇を即位させることで、清盛は天皇の祖父として実権を握りました。これは武力による支配だけでなく、朝廷内の伝統的な権威を継承したことを意味します。
問10	答え 4 平等院鳳凰堂	摂関政治の全盛期を築いた藤原道長の息子である頼通は、父から譲り受けた宇治の別荘を寺院に改めました。これが平等院鳳凰堂です。当時は末法思想の影響で、死後に阿弥陀仏によって極楽浄土へ導かれることを願う浄土信仰（浄土教）が貴族の間で流行しており、この建物はその極楽浄土の姿を地上に再現しようとして造られました。
問11	答え 2 清少納言によって著された、宮中での生活や四季の情景などを描いた随筆が『枕草子』です。	国風文化の時期には、かな文字が広く使われるようになり、清少納言の『枕草子』や紫式部の『源氏物語』などのすぐれた文学作品が生まれました。『万葉集』は奈良時代の和歌集です。
問12	答え 2 遣唐使の廃止にともない、日本の風土や生活に合わせた国風文化が発達し、かな文字による表現が広がった。	894年に菅原道真の建議によって遣唐使が廃止されると、中国の影響を消化しつつ日本の感性に合わせた「国風文化」が成立しました。それまで公的な文書は漢字（真名）で書かれていましたが、日常的な感情や細やかな情景を表現するのに適した「かな文字」が使われるようになり、紫式部らによる物語文学の開花につながりました。
問13	答え 3 源氏物語	万葉集から古今和歌集への変化は、外来の価値観から日本独自の価値観への移行、すなわち国風文化の確立を象徴しています。この時期には、かな文字の発達により、紫式部による『源氏物語』や清少納言による『枕草子』などの優れた女流文学が数多く誕生しました。